



「区政会議」でいただいたご意見への対応状況をご紹介します！！
～「平成30年度第2回区政会議」～

■区政会議とは

・区政運営にかかる方針や区における施策・事業について、区民の皆様からご意見・評価をいただき、そのご意見等を施策・事業の改善や新たな展開等に反映させていくために、各区において開催しています。

■第2回区政会議を開催しました(平成30年12月13日)

「平成30年度区運営方針中間振り返り」および「平成31年度区運営方針(素案)」について議論を行い、委員の皆さんから次のようなご意見をいただきました。

番号	いただいたご意見	対応状況(令和元年6月末現在)	分類	予算措置 (①②の場合記載)
1	【区政会議】 区政会議は分科会形式での実施や専門部会の設置で議論しやすい環境となってきた。もっと議論を深めるために、にぎわいに関する部会を設置してはどうか。(中野佳弘委員他1名)	区政会議委員の皆様が、にぎわいに関することも含めた区の施策に関して意見交換をしながら理解を深めていただく場として、任意参加のラウンドテーブルを平成31年2月に開催しました。	①	【30年度予算額】 ・区政会議 202千円
2	【区政会議】 資料の事前送付時に、あらかじめ当日の運営方法や各委員の担当テーマ、主に使用する資料等を明確にしておくことで、より良い議論になるのではないかと。(玉井委員)	次回開催の区政会議(令和元年度第1回)から、ご意見を踏まえた改善を図ってまいります。	②	【31年度運営方針】 ・具体的取組1-1-1 区政会議の開催と 意見・評価の反映 31年度予算額 228千円
3	【あなたの声をつなげ隊】 区内のイベントの会場で意見聴取を行う場合、会場内にポスターやパネルなど意見聴取するテーマについて、掲示を行うことで意見聴取だけでなく周知の効果も高まるのではないかと。(中山委員)	意見聴取を行う会場の管理者等のご理解が得られた場合、ポスター等の掲示を行ってまいります。なお、引き続き、事業案内チラシ等の配布も行い、事業の周知に努めてまいります。	①	【30年度予算額】 ・あなたの声をつなげ隊 95千円
4	【情報発信】 ・情報を知ってほしいターゲットに応じて、発信する内容・構成を工夫し、どの広報媒体(広報紙、HP、SNSなど)が適切か選択して、効果的に情報発信するべき。(玉井委員) ・広報媒体のフェイスブック、ツイッター等において、区によって流れてくる情報が違う。区役所からの地域情報についてSNSの発信を上手に活用してほしい。(出水委員)	区民に広く知っていただきたい情報は区広報紙及び区HPに掲載する一方、区公式SNSでは区からのお知らせやイベント情報をタイムリーに発信する「LINE@」、様々な行政情報や地域での活動の情報などを写真等とともに発信する「Facebook」、気象警報や緊急情報を発信する「Twitter」、動画を掲載している「YouTube」があり、引き続き、ターゲットに応じた効果的な情報発信に努めてまいります。	①	【30年度予算額】 ・区広報紙 14,107千円 ・広報板等その他 広報関係 1,008千円
5	【情報発信】 広報紙などで事業実施の宣伝等はあるが、それがどうであったなどの報告をしてほしい。地域の事業の結果などを回覧板等で。(平嶋委員)	・広報紙で事業実施結果を掲載する場合がありますが、紙面が限られているため、事業実施の宣伝をしたすべての事業の結果報告をすることは困難です。 ・回覧板は、区役所からではなく地域において回付いただいているところです。地域事業の結果などは、はぐくみネット新聞などで広報をされている地域もあり、各地域の自主性を尊重したいと考えます。なお、「天王寺区の9つの地域活動協議会 supported by天王寺区まちづくりセンター」のフェイスブックにおいて、実施事業の風景写真などを掲載しているものがあります。	⑤	—

番号	いただいたご意見	対応状況(令和元年6月末現在)	分類	予算措置 (①②の場合記載)
6	【人材育成】 ジュニアクラブの活動が年5回では足りない。活動そのものが見えない。もっと回数を増やしたり、それ以外に例えば増嵩しているインバウンドに対して観光ボランティアをしてもらうなど、子どもの教育といった観点から子育て施策の更なる充実を求める。(平嶋委員)	・ジュニアクラブ事業は、青少年の健全育成及び将来の地域活動の担い手育成という観点から地域の方々の協力を得て、年5回程度ボランティア活動や地域の理解を深める活動を行っていますが、活動内容の企画調整に要する時間や、ジュニアクラブ会員が学校や地域などで他の活動も行っている状況、学校・地域行事、区事業との重複ができるだけ生じないように留意して活動日を決定していること、またジュニアクラブの運営委員には事業実施の打合せも含め年10回の活動に参加要請していますが、委員の大半は他の地域活動にも精力的に関わっておられることも勘案すると現在の活動回数が適当と考えています。活動内容について、区HPやフェイスブックの掲載、ケーブルテレビでの発信など様々な機会をつづじて広く知っていただけるよう努めてまいります。 ・子どもの教育の観点からのボランティア活動について、学校からの要望に対し区でサポートできるものについては支援し、子どもに幅広い教育経験を積んでもらえるよう努めてまいります。	③	—
7	【学校施設】 小中学校のトイレの洋式化、体育館の冷暖房設備の設置をお願いしたい。災害時の避難所となるので、冬は寒く、夏は暑い、和式トイレでは高齢者にとっては大変だと思う。(平嶋委員)	学校のトイレの洋式化については市教委において順次進めているところです。災害時の避難所でもある体育館の冷暖房設置の要望について、関係局に伝えてまいります。	⑤	—
8	【人材育成】 地域でのボランティア活動もグローバル人材の育成も双方重要であるから、ジュニアクラブではボランティアだけ、グローバル人材育成では英語だけにならないよう、それぞれの事業でも双方の趣旨を含む幅広い取り組みを進めてほしい。(出水委員)	幅広い人材の育成は重要と考えており、ジュニアクラブ活動でもボランティア活動のほか、留学生と日本語で交流するグローバル社会の視点を踏まえた活動も行っております。またグローバル人材育成事業でも、英語のみならず日本語で多文化共生について学ぶプログラムも盛り込むよう留意しておりますが、今後とも幅広い人材の育成につながるよう、多様なプログラムの企画に努めてまいります。	①	【30年度予算額】 ・グローバル人材育成事業 2,340千円 ・天王寺区ジュニアクラブ事業 302千円
9	【子育て支援】 子育て支援サークルについて、就学前の子どもを持つ親が集まってイベントなどをして人数も増えてきているが、まだまだ知らない人が多く周知が必要だ。今後も周知をしていってほしい。(頓名委員)	広報紙への情報掲載をはじめとし、子育て情報アプリによる情報配信、子育て愛あいフェスティバル、子育て情報博覧会でのブース設置など、周知に引き続き努めます。	①	【30年度予算額】 ・子育て情報アプリ「ぎゅっと！」 1,268千円 ・子育て情報博覧会 128千円 ・子育て愛あいフェスティバル 177千円
10	【子育て支援】 シングルマザー等支援が必要な方々に、情報が届いているか。何かフォローできる体制が必要ではないか。(福永委員、山崎委員)	現況届提出時にアンケートを実施し、ニーズ調査を行うとともにひとり親家庭等サポートブック、子どもの居場所、個別指導天王寺塾のチラシを配布するなどターゲットを絞った周知を続けることにより、必要な支援につなげてまいります。	①	【30年度予算額】 ・子育て支援室相談事業 944千円
11	【見守り】 同意をした人への見守りだけでなく、もっと踏み込めないか。(上戸委員)	見守り相談室では、同意確認のあった方だけでなく、地域で、気になる人や孤立し困っている人に対して、訪問し、地域の見守り活動や福祉サービス等につなげています。	①	【30年度予算額】 ・独居高齢者等見守りサポーター事業 5,155千円
12	【見守り】 いざという時にどうするか、イメージがなかなかできない。見守る人を増やしていけばいいのかなと思う。(三浦委員)	要援護者の見守りネットワーク強化事業において、同意確認のあった方の要援護者名簿を地域の見守り活動を行う地域団体等に提供し、災害時の避難支援など見守り活動につなげています。	①	【30年度予算額】 ・地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業 12,507千円
13	【見守り】 ・どこに相談したらいいのか広報を強化すべき。目の不自由な方等への周知も気になる。(菊山委員) ・各種団体があるが、どこに相談したらいいかわからないので、窓口を一本化できないか。(菊山委員)	・各種相談は、民生委員、町会等を通じて、区や見守り相談室等の関係機関につながるしくみとなっております。 ・引き続き、見守り相談室のチラシやポスターの活用、広報紙の掲載などを通じて事業の周知を継続して行っております。	①	【30年度予算額】 ・独居高齢者等見守りサポーター事業 5,155千円

番号	いただいたご意見	対応状況(令和元年6月末現在)	分類	予算措置 (①②の場合記載)
14	【見守り】 ・運営方針関連資料に具体性のある記載がないので、見守り結果を記載したらいいのではないかと。(松下尚生委員) ・見守りの具体的なエピソードがあれば、必要性をもっと実感できる。(三宅委員)	見守りの利用者等へのアンケート結果を運営方針の策定に反映していますので、今後、アンケート結果を運営方針関連資料に記載することも検討いたします。	③	—
15	【健康】 母親は、乳がん等、がん検診の必要性は知っている。周知も大事だが、検診中に託児ができるような方法があれば、もっと検診を受ける人は増えると思う。(三宅委員)	がん検診では、育児中の方が受診しやすいように、事前申請により、保育ボランティアを依頼することができます。このような受診しやすい環境づくりの取組も含め、引き続き、多くの区民の方にご利用いただけるよう周知してまいります。	①	【30年度予算額】 ・がん検診周知事業 278千円
16	【防災】 公園に防災機能をもっと持たせていくことが必要ではないか。(高木委員)	・一部の公園には災害時の炊事に活用できる「かまどベンチ」や、断水時でも利用できるトイレ「マンホールトイレ」を整備しています。 ・これに加えて、区では平成29年度から31年度にかけて、公園等への避難者に対する対応として一時避難場所向けの備蓄物資の配備に取り組んでいます。	①	【30年度予算】 ・地域資源との新たなつながりを活かした防災事業 3,587千円
17	【防災】 ・留学生などの定住している外国人に対して、災害時に避難できる場所を設置してわかるようにしておくべき。(松下正克委員) ・留学生が実際に通う学校などに、居住の実態などを聞きに行ってみてはどうか。(田中委員)	外国人に災害時の対応の基礎知識を身につけてもらうために、「やさしい日本語」でのお知らせを区HPに掲載しています。現時点では定住外国人向けに特化した災害時避難所はありませんが、今後、外国人向けの支援を行っている専門機関等と協議を行い、災害時の適切な対応や受入について検討を進めます。	③	—
18	【防災(マンション)】 マンションの自主防災組織づくりについて、大規模なマンションは管理組合が機能しているが、戸数の少ないマンションは行政が組織づくりを支援していくべきである。(萱野委員)	現在50戸以上の分譲マンションを対象に、マンション単位での自主防災組織の構築を働きかけており、今後、この取組の成果をふまえて、対象マンションの拡大も検討します。	③	—
19	【防災(マンション)】 町会に未加入のマンションでの出前講座の実施にあたっては、町会長・連合町会長などにも声をかけていただきたい。(田中委員)	地域等で出前講座を実施する際には、可能な範囲で民生委員をはじめ地域で活動している皆さんのご紹介の機会を設けるよう、主催者と調整してまいります。	②	【31年度運営方針】 ・具体的取組4-1-1 防災出前講座の実施 31年度予算額 637千円
20	【自転車マナー】 ・上本町の駐輪場でベストを着て管理をしている人(有償サイクルサポーター)が、駐輪禁止の場所に置かれた場合でも注意していないのが見受けられた。きちんと指導してほしい。(田中委員) ・違法駐輪の自転車を撤去することがもっとも効果がある。(東浦委員)	・有償サイクルサポーターについては適切に業務を行うよう、受託事業者に指導してまいります。 ・違法駐輪については、ご意見のとおり即時撤去の効果は高いので、実施場所・時間、回数等についてより効果が高いものとなるよう、引き続き撤去業務を担う工営所と連携して進めてまいります。	①	【30年度予算】 ・自転車利用適正化事業「Do!プラン」 3,741千円
21	【シティ・プロモーション】 ・区内には京都より古い歴史をもつ生國魂神社や四天王寺があるので、もっとPRしてほしい。(松本委員) ・区内では大阪ウォークや、生國魂神社の陸渡御、四天王寺の七夕のゆうべなど、同時期に開催するものがある。主催者が個々に周知を行うのではなく、連携することでPR効果が高まるのではないかと。(中野浩志委員) ・開催しているイベントが、変わり映えしないと思うので、他の区内の魅力資源を取り上げたり、例えば、小規模な自治体でも実施している映画祭を行ったりしてほしい。(中野佳弘委員)	上町台地周遊マップのデザインを一新し、聖徳太子ゆかりの地を取り上げた構成にリニューアルし、天王寺の歴史魅力の発信に努めてまいります。また、歴史ウォークのコースに数多くある天王寺の歴史魅力スポットを取り入れるなど、区内にある歴史的・文化的資源を活用して、周辺区と連携しながら効果的なシティ・プロモーションの取組を続けてまいります。	①	【30年度予算】 ・天王寺区魅力発信・にぎわいづくり事業 546千円

番号	いただいたご意見	対応状況(令和元年6月末現在)	分類	予算措置 (①②の場合記載)
22	【シティ・プロモーション】 織田作之助は生魂小学校出身。天王寺区出身の著名な作家なのでもっとPRしてはどうか(桑原委員)	平成31年2月に開催したてんのうじ再発見セミナーで文学をテーマとして取り上げました。	①	【30年度予算】 ・天王寺区魅力発信・にぎわいづくり事業 546千円
23	【シティ・プロモーション】 熊野街道ウォークの参加者の年齢層は高いと聞く。イベントのチラシを作る際は、参加してもらいたいイベント対象者を意識したデザインにすることで、若い世代の参加を促すことができるのではないか。例えば「親子で歩こう！」など。(中野佳弘委員)	イベントチラシの作成に関しては、より注目を集めやすいタイトルにするなど、若い世代にも興味を持ってもらえるような工夫をしております。	②	【31年度運営方針】 ・具体的取組5-1-1 天王寺区魅力発信・にぎわいづくり事業 31年度予算額 842千円
24	【シティ・プロモーション(人材育成)】 イベントは、開催時だけの一過性のものになりがち。イベントととして楽しむだけでなく、例えば、学校と連携し、区の歴史など子ども向けの教育を充実し区内の歴史などを知ってもらうなど、定着する仕掛けが必要(玉井委員)	ジュニアクラブ事業では、青少年の健全育成及び将来の地域活動の担い手育成を目的として、小学校4年生以上の子どもを対象に世代間交流やボランティア活動などを実施しておりますが、近年(平成28年度以降)は年1回区内を巡り街の歴史について学ぶ活動を実施しております。今後ともいただいたご趣旨も含め、取組みを検討しております。	①	【30年度予算額】 ・天王寺区ジュニアクラブ事業 302千円
25	【シティ・プロモーション(万博)】 ・2025年の大阪万博の際は、四天王寺などに区内の来訪者が増えることが予想される。区においても万博開催に向けた取組みを検討してはどうか。(中山委員) ・四天王寺を建てた宮大工の金剛組は区内に本社がある。万博開催により、世界中から観光客が来るので、社寺建築を行っている金剛組をとりあげてはどうか。(中野佳弘委員)	2025年大阪万博に向けた観光振興については、全市的な取組とも連携しながら、今後検討してまいります。	③	—
26	【シティ・プロモーション(地域活動協議会)】 ・真田山地域では、地域活動協議会発足時から、構成団体が参加して、真田山カーニバルを実施している。地域の団体が集まって一緒にイベントを行うことにより団体同士の理解が深まった。地域の核として“祭り”は重要。居住歴や世代、また区の歴史、情報等への知識等が異なる多様な住民が交流できるイベントを開催することで、住民同士が情報交換ができたり、相互理解を深めたりできるので、こうしたイベントを実施してはどうか。(竹田委員) ・「9つの地域をつなぐウォークラリー事業」をきっかけに始まった生魂地域の「みのり茶会」は、子どもが茶道(地域資源)にふれるきっかけになっており、子どもと一緒に若いお母さんも参加してもらえる地域行事として定着しつつあることから、(つながりづくりに)効果的だと思う。(松本委員)	・区内9地域中真田山地域を含む6地域では、地域活動協議会の構成団体をはじめ地域の団体が集まって一緒に地域ふれあい祭りなどのイベントを実施され、住民同士の情報交換や相互理解を深められています。他の3地域でも地域の団体が集まり、防災訓練などを実施されており、地域毎で事業内容を検討され実施されていることから、実施事業の内容は地域の自主性を尊重したいと考えます。 ・区全体の住民の交流のため、コミュニティ育成事業として、区民まつりや区民文化のつどいなども実施しており、今後ともより充実した内容になるよう工夫してまいります。	⑤	—

※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
⑤その他